

令和3年度第1回日進市総合教育会議 議事録

日 時 令和3年7月21日(水) 午後3時30分から午後5時まで  
 場 所 日進市役所本庁舎4階第1会議室  
 出席者 近藤裕貴(市長)、久保田力(教育長)、藤井美樹(教育長職務代理者)、伊藤志門(教育委員会委員) 小林秀一(同)、市来ちさ(同)、武田立史(同)  
 欠席者 なし  
 事務局 石川達也(総合政策部長)、和田徹(同部調整監)、杉田武史(同部次長兼企画政策課長)、安彦直美(同課課長補佐)、山浦勝義(同課企画経営係長)、中根友樹(同課同係主事)  
 説明の為に出席した者 市川秋広(学習教育部長)、加藤慎司(同部次長兼教育総務課長)、高田由紀(主任指導主事)、後藤幸宏(学校教育課長)  
 傍聴の可否 可  
 傍聴の有無 有(4名)  
 次 第 1 開会  
 2 あいさつ  
 3 議題  
 学校における働き方改革の支援について  
 配付資料 資料 学校における働き方改革の支援について  
 別紙 日進市令和3年度市費負担会計年度任用職員配置一覧

発 言 者	内 容
	1 開会
	2 あいさつ
	3 議題
	議題 学校における働き方改革の支援について
市 長	議題について説明をお願いします。
学 習 教 育 部	(資料に基づいて説明)
市 長	<p>この内容を事前に考えたときに、学校はタイムカードの導入や、ノー残業デイを設定するなど、やれることはやり切ったので、あとは先ほどお示したような市費で雇用している職員を増やすか、やることを減らすしかないのではないかと思います。真剣に先生の働き方改革をするためには、各学校の職場環境を見て、本気で労働時間を減らすことが必要ではないでしょうか。物で解決できること、予算で解決できること、人の努力で解決できること、色々あると思います。</p> <p>現場の先生によると、20日間の有給休暇の権利があるが、実際には数日しか休めないという話も聞いています。国のGIGAスクール構想により、1人1台タブレットを導入し、ICT化を進めていくことになったのであれば、それを最大限活用して、例えば生徒がタブレットで先生が事前に録画した動画で授業を受け、担任の先生は休暇をとり家族と旅行に行くなど、先生が仕事も大事だけど家族も大事にする姿を子ども達に見せることも、すごく大事なことだ</p>

	<p>と思います。働き方改革と言うのであれば、ICTをうまく使いながら、これまでの常識的なものを、勇気をもって壊していくことも必要なのではないかと思います。休暇についても、子ども達の休み期間中は可能だが、授業の日には有給休暇を取得できない、ということがなくなってほしいと思います。その上で、先生と子ども達の間にも人間的なつながりが生まれてほしいと思います。昨年度議題とした地域学校協働本部が導入されて、地域の人達が学校に関わるようになってその後どうなっているか、現場はどうなっているかということも含めて、事務局に質問していただいても構いませんので、委員の皆様のご意見はいかがでしょうか。</p>
委員	<p>日進市は市費での職員配置など色々な手当をしており、10年前と比べて遥かに先生の負担も軽減されていると思います。昨今の状況からも、すごく多くの地域の方が学校に入って色々支援してくださっていることを感じます。先日、地域の「交通安全ゼロの日」で交差点に立った際、交通指導員が一生懸命子どもたちに声をかけ指導してくださるのを拝見しました。交通指導員は朝と帰りに登下校の指導をしており、中には通学班から飛び出してしまう子どももいて、大変だと思いました。そんなとき指導員さんが一緒に学校まで付き添って様子を報告することで、担任の先生は保護者と連絡を取って、上手に指導することができると思います。人の手当という点で、色々なサポートがある中で個々の活動を見ていくと、本当によく努力してくださっているのだから、その辺りをもっと手厚くされるといいと思います。保護者への対応については、人の配置によって効果をそれなりに発揮しているのではないかと思います。</p>
市長	<p>より多くの方が教員を目指すようになっていただくためにも、働き方改革を通じて、職場環境をさらに良くしていくことが必要だと思います。先ほど交通指導員の話が出ましたが、30名の定員に対し7名不足しています。そこで学校の先生を助けるという意味で、交通指導員業務以外の時間に、学校の先生の授業準備の支援などの仕事をやっていただければどうでしょうか。希望者に授業準備の支援をしていただくことで、先生も助かるし、指導員の収入確保にもつながると思います。</p> <p>交通指導員は、朝夕の登下校の安全を守っていただくという内容から、学校の大事なサポーターであって、先生の指導を補佐するという仕事に変わっていく、ということも必要かもしれません。未来に向けて、昔の教員経験者が悔しがるような、職場環境を作っていきましょう。</p>
委員	<p>今まで、学校の先生のボランティア精神に国も自治体も頼っていた現状を、これまでの水準から下げないように、下がってしまうのであればその理由を説明できるようにすべきだと思います。市がやらなければいけないことは、学校の始業時間・終業時間を設定して、先生の業務の範囲を決めてあげることではないかと思います。あと、PTAについてですが、PTAの役員からは、ボランティアをやりたいが何をやればよいか教えてほしいというニーズが多いです。授業以外で、例えば花壇の管理など、先生がやりたいと思っているがやれていない部分をお願いできればと思います。PTAは最近、コロナ禍で研修等の</p>

	活動がなくなっていて、何か学校のためにできることがないかと思っ ていますが、どうコーディネートしたらよいか分からないという話が出て います。
市 長	今の委員のお話から、PTAの皆さんが学校のことを助けたいと考 えてくれているのだと感じます。PTA活動は土日が中心で、校長や教 頭先生が対応していますが、クラス担任をやっているような先生方の 思いをいかにPTAにつなぐことができるか。例えば、低学年のクラス 担任とPTAが本音で話し合うことができれば、よい結果が出てくる かも知れないと思います。
委 員	学校内のことは学校がやり、PTAは学校外のことをしっかりやっ ていただく、例えば授業が終わった17時以降はPTAが学校に入って、 作業等のお手伝いができるのではないかなと思います。
市 長	学校側として、PTAの皆さんに、実際にクラス担任や教科の先生 のお手伝いをやっていただくことは可能なのでしょうか。
教 育 長	PTAは、外部関係団体、任意団体となりますので、今委員のお話 にありましたように、学校外のことをやっていただくことになっていま す。PTAが活動する土日には、基本的に教員への職務命令を出すこと はできないので、管理職が対応しています。ただ、教員とPTAの橋渡 しをすることは可能ですので、そういう情報を学校側がまとめて、保 護者と情報共有することは大事だと思います。相互のメッセンジャー 的な役割、コーディネート機能を、学校の管理職ができると良いです が、それをサポートするために、地域学校協働活動のコーディネーター を設置したところです。今年度活動が始まったばかりで手探りのと ころもありますが、期待したいと思います。
委 員	日進市では、タイムカードで先生の在校時間を管理し、在校時間 数の増加による負担は減ってきていると感じています。しかし、在校 時間は減っても業務が減らない、また、もっと子どもたちのために やってあげたいという気持ちがあっても、帰らなければいけないこと で諦めているような状況があるのであれば、その解決を図ることが 必要だと思います。昨今はコロナ禍の影響で想定外のことが起きて いて、行事の中止や、簡素化が行われました。ただ、私が出席した 行事の話にはなりますが、簡素化されてはいたものの、とても良い 内容で十分に満足できる内容でした。教員の多忙化解消という観点 で言えば、内容が簡素化しても変わらず良い行事になるという意味 では、結果として良かったこともあるかもしれません。行事以外の業 務においても、削れるところは削るべきで、先生の業務内容の精査 を少しずつでも考えていくことが必要だと思います。その上で、ま だ時間数が多いということであれば、市費の職員や、地域でサポート していただきたいと思います。
市 長	学校のタイムカードについてですが、現場ではきちんと運用され ているのでしょうか。タイムカードは押されているが、実際は学校に 残っているとか、そういうことも起きないとは限らないので、対策も 必要だと思います。我々が目指すのは、先生方の健康等を守るため の真の働き方改革であって、その前提として、タイムカードを信用 できて、実態がきちんと分かるようにしておくべきだと思います。

委員	<p>もちろん、それがきちんと運用されていることが前提ですし、もしそうでないことが起きているのであれば、その運用自体に無理があるのだと思います。時間外勤務を削減するためには、現場の先生方の聞き取り等を行うことが必要であり、超過部分をなくすことができないのであれば、人を充てる等の対策を考えなければならないと思います。</p> <p>ある私立中学校では、担任を持つ先生も週1回「研究日」として休み、その日は副担任が授業をしているそうです。私立だから可能なことかもしれませんが、そういうことも必要になってくるのかも知れません。</p>
市長	<p>学校現場は、今年使った教科書を来年も使うわけですが、自分が担任する学年が変わらなければ、先生の負担が軽減されることはあるのでしょうか。</p>
学習教育部	<p>教える内容が変更なければということもあります。何年も同じ学年を続けて担任することは、ないとは言い切れませんが、それほど多くはありません。中学校ですと、1年生を担当した翌年は2年生に持ち上がる、という流れが多いです。</p>
市長	<p>例えば同じ学年の担任が続いたときに、ある単元の45分間の授業の内容がすごく良くて、それがビデオに録画されていた場合、それを利活用して日進の学校全体の同じ授業で使う、という手法は、今後あり得るのでしょうか。</p>
学習教育部	<p>可能性としては高くないと思います。例えば道徳科の授業は、内容が1回の授業で完結するので、可能かもしれませんが、英語などの他の教科では、単元が毎回次に進むため、それを1年分同じ先生が録画するのか、また、他の同じ教科の先生と協議して、より質の高い授業を作ることを検討しなければならないとなると、それが却って負担になる可能性もあります。道徳の授業の場合は、教員免許のない方をゲストとして呼び、担任と一緒に授業をしてもらうことも可能ですので、学校に教材がストックされています。以前からそういうことをやっていて、先生の負担軽減が図られています。道徳以外の教科では、不可能ではありませんが、準備のための負担が増える可能性があります。先生はそれぞれのアプローチで授業を行うのが仕事ですので、一概に同じものだというのは不可能ではありませんが、実現するのは難しいと思います。</p>
市長	<p>授業によっては可能性があるもので、できることから導入していくことも一つの手法だと思います。我々が今日テーマにしているようなことは、これまでの先生方の努力の延長線では枯渇しかねませんので、思い切って実施してみる必要があるのではないのでしょうか。</p>
学習教育部	<p>お話を聞いて思ったのですが、これから見直しを考えていくことの一つとして、初任者からベテランまで非常に年齢層が幅広いことによる教員特有の問題があります。若手教員はどうしても、教材研究などに時間がかかり在校時間が長くなるといったこともあって、若手教員にどのような指導をしていくか、中堅のミドルリーダーに指導を促したり研修の受講を促したりして教員を育成することは、学校が行う最大の義務だと思います。それ以外の超過部分で、例えば、通学については、学校外のことなので本来は保護者の責任となりますが、通学時も指導してほしいとか、学校の外で見守ってほしいとか、休日の生</p>

	<p>徒間のトラブルを指導してほしいなど、保護者が学校に望むことのウエイトが非常に大きくなっています。そのため先生の負担が増えて病気になって休むと、さらに他の先生が対応するため多忙化してしまいます。そういった生徒指導の部分については、市費の交通指導員やスクールソーシャルワーカー等にサポートしていただいております、学校は非常に助かっています。スクールソーシャルワーカーは、学校にずっといるのではなく家庭に赴いたり学校で話を聞いてくれたりして、保護者に教員が直接対応する際に間に入ってくださることで、相談にかかる時間を軽減したり、別の機関につないでくれたりするので、教員の負担軽減になります。ただ、子どもの増加に伴い案件も増えていますので、ワーカー1人当たりが抱える案件数は、日進市は本当に多いです。</p>
委員	<p>先ほど先生の業務内容の精査というお話がありましたが、先生が行う最も大切な仕事は何かということ、忘れてはならないと思います。先生は目の前の児童生徒と向き合ってより良い学びにつなげることで、その子が社会に出たときの幸せを願うことが一番であると思います。それを考えたときに、ICT活用、素晴らしい録画授業があったとして、特に義務教育、公立の小中学校では、学びたい意欲がある子どもには有効だと思いますが、意欲のない子どもや、特性があって座ってられないような多様な子どもがいる中で、ビデオで授業を流して同じようにキャッチできるかということ、差が出てくるのかなと思いました。中学校で授業を受け持っていた時に、1学年で同じ単元を6クラスで教えていたことがありました。同じ授業を6回やるのですが、教える内容は変えずに、クラスのカラーや、そこにいる生徒の特徴が色々あるので、アプローチの仕方を変えて授業をする必要がありました。そういったことを考えると、先生の仕事で一番大事なことは、目の前の子どもと向き合うことだと思います。そのためには、去年の授業を同じようにやるのではなく、目の前にいる子どもを見て、考えることが必要になってくるので、時間数を減らして業務負担を減らすことは大事ですが、子どもと向き合う時間を減らしては何もならないと思います。先生でなくても何とかなることを他の人材にやっていたらかなければ、教育の質が落ちますし、未来を背負って立つ子どもたちの学びを十分に保障することができるのか、長いスパンで考えたときに疑問があります。別紙の資料でも、本当に色々な方の支援を受けて学校が成り立っているわけですが、子どもたちにそういう姿を見せることは、すごく学びにつながると思いますし、子どもと向き合う以外のところで学校に入っただくことで、地域みんなで学校を盛り上げていくことが大事なのかなと思います。</p>
市長	<p>お話を伺っていて思い出したのですが、ある学校の先生が、自分の学校の入学式と、自分の子どもの入学式が重なり、その先生は子どもの入学式に付き添った、これの是非が問題になったことがありました。前もって予定が分かっていたのであれば、管理者としては、自分の勤務先の学校の入学式に行けと言わなければならないのか、一生に一度しかない子どもの入学式に行ってもらって勤務先の学校は何かかすと言わなければならないのか、正解はないと思いますが、日頃から日進の教育はこうすべきだということも、皆さんと考えていかなければならない</p>

	<p>と思います。今自分とはまた違った観点からの意見を伺って、確かにどちらの授業を受けたいかと言えば、自分も、生の先生の授業を受けたいと思います。今日我々がここでテーマとしていることについて、あの手はどうか、この手はどうかというお話をさせていただきましたが、働き方改革でない、何を大事にするかというテーマだと、全く違う答えになります。</p>
委員	<p>削る部分の精査が必要だと思います。先ほど市長が、今までの常識を、勇気をもって壊さなければならないとおっしゃいましたが、そのとおりだと思います。一番核になる部分は守りつつ、それ以外の所で壊していかなくてはならないと思いますし、保護者や地域の方など、周りの方の理解も得ながら変えていく必要があると思います。</p>
市長	<p>あなたの子どものことを、あなたが親として思うのと同じくらいの思いで我々は一生懸命考えて子どもに愛情を注いでいるという自信と、それ相応のことをやっていけば、委員が今危惧されるようなことも、徐々に変わっていくのではないかと思います。</p>
委員	<p>熱意のある教員は、恐らくタイムカードに関係なく残ってしまうと思いますが、今は残業時間を減らして、働きやすく整理されており、良い方向に行っていると思います。部活について言いますと、小学生のうちは時間も短縮されていると思いますが、中学生になるとある程度興味をもってくるので、少しでも良い指導を受けたいとか、経験がない教員でも野球の指導をしなければならぬなど、どうしても働き方改革に沿えない場合も出てくると思います。日進は吹奏楽が盛んで、朝練や休みの日も出てきたりしますから、どうしても80時間以上になると思います。そういった熱心な先生方について、やる気をそがないようにしていただきたいと思います。コーディネーターの役割は非常に大きくて、サポートする人達をうまく学校に配置して、地域の人達にも入っていただければ、良い教育現場になると思います。</p>
市長	<p>できるだけ時間外にならないよう、他にサポートできる人が入って支援を行い、部活の指導をやりたいという熱心な先生には、休日の部活の指導など無償になっている部分を保障する仕組みの検討など、市としてできることはやっていければと思います。本日皆様からいただいた様々なご意見は、今後の日進市行政の参考とさせていただきます。我々が一つ一つ、できることを確実に実施した上で、検証等をしていく必要があると思います。</p>
教育長	<p>このテーマに対して、労働者としての教員のあり方と、教員の本来業務とは何かということを考えるべきだと思います。業務を削るのは良いが、子どもが笑顔になること、将来的なことを考えて、教員のモチベーションを保てるようにすべきだと、最後に思いました。</p>
	<p>(閉会)</p>